

会 議 録

会議名	第10回まちづくり委員会		
開催日時	平成23年5月24日(火) 午後6時30分～8時30分		
場 所	消防庁舎3階 小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 赤羽昭比古、牛丸喜美子、本多啓次、水野隆幸、有賀寛子、倉澤有里子、関彰子、高木清房、千田富子、中村文昭、原美子 (町) 一ノ瀬課長、一ノ瀬補佐、木村、殿内	出席人数	
		委員	11人
欠席者 (敬称略)	(委員) 熊谷久司、関根渉、林善教	町	4人
		計	15人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 自己紹介 4. 経過説明 5. 協議事項 (1) 今後の進め方について (2) その他 6. その他 7. 閉 会		
資 料	(配布資料) 次第、地域協働のまちづくりと人材開発に関する調査研究(抜粋) 他		
会議結果	今後の進め方について検討しました		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会：東日本大震災も目を覆いたくなるような惨状に、涙せずにはいられませんでした。一日も早い復興を望んでおります。本日は今年度の活動についてご協議いたします。ただいまから委員会を始めます。		
委員長	先週の木曜日に西小のカワニナ委員会のこども達と一緒にカワニナを放流してきました。大震災がありました、早く復帰することを願いたいと思います		
	資料確認		
	自己紹介		
事務局	経過説明		
	協議事項		
事務局	<p>今日の会議は委員会の今年の活動目標を決定していく委員会にしたいと思います。これまでの協議の中で大きく2つの意見が出されたと思います。まず皆さんと共有したいと思います。今日、お集まりのまちづくり委員の皆さんは地域活動団体のリーダーとし、様々な活動を実践されております。今までの活動の中でイベントへの参加者が少ない、団体の後継者がいない、ボランティア募集してもなかなか集まらない、ほたるまつりの総踊りへ参加意識がなかなか高まらない等、色々な悩みや課題が見えてきたのではないかと思います。前回それぞれの活動フィールドをベースにしてお話していただきました。その中で2つ感じたことがあり、</p> <p>1. 地域活動に参加し、地域活動団体と共に活動する中で、みえてきた課題を委員会に持ち帰りまして、これからの協働まちづくりのあり方を検討していく。たとえば、1例であれば、ほたるボランティアを1度経験して、町の行事に対するボランティアとの活動の提携とか維持とか、そういったものにたいして自らが行動した上で意見をもち帰って協議したらどうか・・・というようなイメージで捉えた訳です。</p>		

事務局	<p>2. 委員会そのものの立ち位置を明確にしたらどうか。というご意見であったかと思えます。町は協働のまちづくりに対して、はっきりと申し上げて行政としてはまだ一歩なり・半歩なり踏み出したところです。従来の行政運営には無かった部分が平成の行政改革の進行等に伴いクローズアップされてきています。そのなかで町には委員会に対して行政にはない視点による提言・ご意見を求めているので、より対極という立場にたって協働のまちづくりに対する意見・提言をいただく。こういった立ち位置での協議をしていく。こういうご意見があったのではないかと思います。</p> <p>これを踏まえて、一定の方向性で今日ご提案をしたいと思えますが、そこまで話をしてしまつて意見を頂戴することによろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>そうですね。提案していただいたほうが見えると思えますので、提案を聞かせていただきたいです。</p>
事務局	<p>委員会のこれからの活動についてひとつ協議いただきたいのは、地域づくりの進め方について一定の方向性を導きだしてはどうかと思えます。先ほどありましたが、活動組織が色々あります。NPO 団体・ボランティア団体・各行政区、その中で、活動組織で困っていることの一例を出せば参加者が少ない、リーダーの育成に困っている、補助をもらって崇高な目標をもって補助制度をもらったけれど長続きしない等色々あると思えます。辰野町もなかなか人口が増えないしどうしたらよいか。疑問を持った方がどうかたちで大きい広がり広げていくか。いろいろな地域で辰野町をなんとかしようと思っている方がいっぱいいらっしゃると思うのですが、ひとりが心の中で思ってもなかなか活動・行動に繋がらないものですから、そこをどういう形で仲間を広げていくか。あるいは、実際に仲間が増えたら少しは助成制度をいただいて、ポップ、ステップ、ジャンプして行う。そういう様なものを順序立てて指針として作り上げていく。そうした部分を一つの小さな芽が大きくなっていくような一定の筋道論でリーダーを育成していくような、そうした部分の指針をつくってあげる。そういった部分は、それぞれ活動されている方がある程度実践で培われてきたようなこともありますし、実践のなかで悩んでいる、苦しんでいることもありますので、その辺を体系的に整理してみたらどうか・・・ということがひとつあります。</p> <p>もうひとつは、まちづくりへの支援策の体系的整理です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
A 委員	<p>つまり、町では自分が何か活動したい時に、それに係るノウハウをひとつひな型として作るみたいなそういうイメージに考えてよろしいですか。</p>
委員長	<p>そうですね。</p>
B 委員	<p>さっき事務局が説明いただいた時に、こういうことを理解しなきゃいけないよみたいなことを言われたと思えましたね。</p>
事務局	<p>指針のことですかねえ。</p>
B 委員	<p>経過の中で。結構大きなテーマがありましたね。</p>
事務局	<p>推進委員会ですか。</p>
B 委員	<p>それが結構重要なテーマだと聞いて思ったんですけど。それと評価。その 2 つが何となく最後までとっておかなきゃいけない、考えておかなきゃいけない内容じゃないかと思えました。</p>
A 委員	<p>評価は難しいと話ができました。やったことに対して、これは良い、これは悪い、評価できない。非常にこれは難しい問題と 2 期の委員会の中でも話ができました。</p>
事務局	<p>とても大事なテーマです。</p>
A 委員	<p>住民が主体の活動に対し評価することは難しいとの結論でその部分は実行に至りませんでした。逆に言えばあまりしないほうがいいのかと思えます。</p>

A委員	実践する組織としての、ボランティアセンターで立ち上がったものがボランティア市民ネットワークですよね。各実践団体が集まってきて、ボランティアセンターを運営するための会議という位置づけです。
C委員	推進というか、ネットワークという形なので、ボランティアセンターを使っている各種団体の人達の協働で何か活動していくのに、それぞれが活動しております。
D委員	住民のみなさんが協力してもらって、どうやって少ない予算の中で町をつくっていくかを、もう少し真剣に考える。簡単に言えばそういうことで、難しい説明をしていただいたが要はそういうことだと思います。それを念頭において、まちづくりをどのようにしたらよいか我われが一つ一つの起爆剤となり考えていけばよいのかなと思います。
E委員	いまの提案で今年 1 年活動するという事はいいんじゃないですか。具体的に線がでているのでいいかと思います。
F委員	話を聞いていてボランティア活動というのは、集団や組織が前提ですが、ボランティア活動の前提というのは個人だと思います。先ほど出ているように意識をもって受け入れれば活動はスムーズです。ただし住民の方はちょっと考えが違ふとおもうんです。そういう人たちの考え方をくみとって、皆で意見を出し合ってやっていくことが、協働のまちづくりの一番の基本じゃないかと思います。
G委員	たぶん皆さんもそうだと思いますが、いろんな団体に属しているんですよね。僕も三つも四つも属していますが。その居心地のよいところにどうしても行くんですけど、やっぱり、何かをやろうと思うと色々な障がいがあります。協働のまちづくりを皆で何かやろうと考えると、多少意見を言うと、なんとなく僕なんか他所者のせいさぐ潰されるんですよね。すると、自分の居心地のいい団体に入ってしまうんですけど。誰しもボランティアの意識が有ると思うんですよ。何かうまくリーダーを育てて、それについていくような形で地域でたくさん何かできれば、いいかなあと僕は思うんですけどね。
C委員	今日、皆さんそれぞれの団体から来られていますし、私もそうですけど、皆さん一つの団体じゃなくて幾つも所属していますね。私がボランティア運営委員会ですが、運営委員会のなかで私は「ばくちゃんのおもちゃ箱」の代表として運営委員になっている。「ばくちゃんのおもちゃ箱」ってそもそも 13 年になりますが、いらなくなった靴下で人形を作って人形劇を始めて、それを自分の子供にやっていたらおもしろいぞということで、それが小学校に行き行ってやってくれと言われて、今は辰高生が自分たちが保育園や幼稚園に行く時に、そのノウハウとして教えてくださいということで、それを年 2 回くらい行っていますが、だんだん広がって、繋がりができいろんな枝ができて、ここまで私はきてしまっていると思います。 各自のそれぞれの活動が、それぞれのやり方で行き詰ってどうしようと同じものを抱えていると思うんですね。そこらへん一本何かができれば、もっと枝が広がってもう一歩と感じます。こういう時期に見直して、皆が提携できたらもうちょっと違うやり方とか、何か違う方針だとか・・・お話を聞いていて思いますね。

H委員	<p>いろいろな補助金の問題がありますけどね。5年・10年経っていくうちに結局高齢化しちゃいますよね。実際に取っ掛かりの人たちが高齢化してそれに対する後継者が無くなってしまいます。すると自然に消滅してしまいます。それはどんな場合も後継者の問題が多くあると思いますし、ボランティアの方もそうですけど、いろんな形で各学校もいろんな支援がはいっているんですよね。補助金の問題もありましたけど、今の時代財政難のなかで皆が知恵出せ・ずく出せで、そして、また昔は「結い」という形がありました。今度の震災では、あれだけ大きな大震災ということで、その時に誰が何をしたか・・・一番地域のつながりっていうことがすごく大きかったんですよね。なかなか支援も届かない・・・という中で、皆が家にあるお米を持ち寄って直ぐに炊き出しをしていました。まず、第一に地域をつくらなくちゃいけないな・・・ということ、すごく感じております。</p>
B委員	<p>特にあまり無いんだけど。事務局がまとめてくれたのが、あの場に居ないのに良く上手にまとまって、議事録をちゃんと読んでくれて、そのとおりでと思いました。だから、あそこを書いてある2つの内容でいいんじゃないかなと思います。特に、②の内容で仕組みができていくと思います。補助金も町の補助金だけでなくいろいろな補助金を利用すべきで、幾つもの補助金があります。それに気づかないか、そこまで照会しないのか・・・というところを考えると、・・・県なのか・財団なのか・・・ということを含めて、もっと上手なやり方があるはずで、そういうことを含めて入り口をつくってやるのが、この委員会としていいんじゃないのかな。ネットワークを使って飛んでいくようにしておけば、理想的なものができると思います。</p>
I委員	<p>十何年前の情熱をもってあかりをつくった人たちがそれぞれ高齢になってきたところで、次世代を担う人たち後見人を次の世代を育てなきゃいけないところでは、キーマンの欲しいところです。そんなところで、やっぱり人づくりだと思うんです。それともう一つ、お金がやっぱり必要になると思います。</p>
副委員長	<p>それぞれさっき出ましたようにお金の問題もあるかと思いますが、長続きしなかったり、立ち上げて終わってしまった。私たち、そういう中に入って悩みを聞いたり、情報交換を出来るような状況をつくっていくのが役目だと思います。今の状況からみると皆何かをやって、元気なまちづくりにしたいという考えはあるけれども、その取っ掛かりに何か入っていけない状況があるかなと思います。</p>
A委員	<p>これでいいと思います。地域づくりのヒントが出て、地域づくりの活動でQ&Aというのがあって、県のものだと思うんですけど、これの辰野町版を作ればいいかなと思いました。長野県のこの中に非常にいいことがあって、たとえば地域づくりに取り組もう。参加の輪を広げよう。活動を広げよう。そんなのがあって、そのためには辰野町ではどういったことをしたらいいのかなってことを考えると、実践の組織に近い活動にいくらか近づいてくるのかなと思うので、これをやってみるのはいいことだと思います。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございました。そのように進めていきます。また、来月からお忙しいことと思いますけれども宜しくお願いいたします。</p>

E 委員	役場の職員さんの意識について話がありました。まさか、その話がいま出るとは思わなかったですけど。区長の立場からいうと、いま役場に一番言いたいことは、何か相談に行ってもだいたい門前払いといいますかかなりそういう事例が多いです。町民から町へ直接相談がいくと、すぐ区へ下ろしてきます。そんなことがあってはならないと思うんですけど、実際にはそれが多いです。ですから、町も組織の中でも機会があったらそのことを考えて下さい。
D 委員	追加ですみません。もう一度念をおして申し上げたいんですけど。私も前の委員会で同じ事言ったんですがより大事なことは、職員の方の問題意識というか、今、言われたような意識をもって仕事に当たってもらおうということは、より大事だと思います。町を活性化なり、住民の意識が変わってくると思うし、町に何か言えば悪口を言うだけじゃなくて、良い方向を考えて受け入れてもらえるような体制ではないと、せっかく行っても意味がないという議論も出てきます。こういう事をやるのは、町の職員の方がまずやってもらって、その次に我々がやる。順番はそういうことだっという気持ちがしないでもないです。全く同感です。
F 委員	役場のほうへ苦情とか、提案とかいろんなことを言った時に、あまり受け付けてもらえなく反応が良く無いという話がありました。それ以前からたくさんいろんな形で提案がとか要望とか出ていて、自分たちはいろんな考えをもっているから、町の方はそれだけに答えるのはなかなか難しいし、上手く対応できない事もあったと思うんです。私は、それが正に協働のまちづくりだという気がするんですけど。町の職員の方も含めて、我々はその問題を投げかけるだけでなく話し合う場がないんですよ。意見を出し合って自分たちで解決するわけじゃないかもしれないけど、少なくとも問題意識を共有できますよね。
委員長	職員の地区担当制とかいろいろなことはこれから話し合っって、それを盛り込んだり提案できたりしていけばいいですね。
事務局	今日は貴重なご意見を頂戴しましてありがとうございました。
	次回委員会 6月28日（火）午後7時00分～
副委員長	閉会